【　専門分野　精神看護学　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
精神看護学概論	1	15 時間（8 回）	1 年次・前期	中山　奈緒美

実践的教育内容	看護師として５年以上業務に従事し（専門領域：精神科において３年以上の業務従事も含む）専任教員として必要な研修で精神看護学領域についての教授方法を修了した者が、人間にとっての「こころ」について自己も他者も含めて考えることができるよう教授する
学習目標	１．ライフサイクル各期における発達課題との心の危機的状況について理解できる ２．心の健康がいかに重要であるか理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 □5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1．精神に障害があるとは・・・	講義 GW	7 回	6．DVD「精神」 1）当事者の生きにくさ 2）当事者と健常者	DVD 学習 GW
2 回	2．心の健康と現代社会を考える 1）心の機能	講義 GW	8 回	終講試験	試験
3 回	3．精神力動論 1）自我とは、自我機能	講義			
4 回	3．現代社会（生活）における危機	講義			
5 回	4．ライフサイクルにおけるストレス	講義 GW			
6 回	5．DVD「精神」 精神に障害がある人を捉える	DVD 学習			

評価方法	筆記試験　　100 点	教科書	系統看護学講座　精神看護の基礎 （医学書院）

【　専門分野　精神看護学　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
精神保健福祉概論	1	30 時間（15 回） ①　10 時間（5 回） ②　 6 時間（3 回） ③　 8 時間（4 回） ④　 4 時間（2 回） ⑤　 2 時間（1 回）	2 年次・前期	①柱谷　久美子 ②八田　篤郎 ③冨川　明子 ④樋口　頼良 ⑤頼友　和平
実践的教育内容	急性期病院や総合病院などの臨床経験も豊富で、現在大学院で精神看護学を専攻している保健師と精神看護学専門看護師が地域で生活するうえでの精神保健福祉について具体的に教授する			

学習目標	1．精神保健の入院医療から地域生活への移行を理解し、精神の健康に関する普及啓発活動について理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (柱谷)	1．人々の暮らしと精神保健福祉	講義	8 回 (八田)	6．地域移行支援の展開 1）精神障害者の地域生活支援の現状	講義 講義
2 回 (柱谷)	2．精神保健福祉の歴史 3．精神保健福祉に関する法律と施策 4．精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術	講義 講義 講義	9 回 10 回 (冨川)	2）精神障害者のニーズに応じた地域支援の展開 3）地域生活の中断を防ぐための支援の展開 4）地域における早期支援の重要性と支援の展開	講義
3 回 (八田)	1）一次予防（八田先生）	講義			
4 回 (頼友)	2）二次予防（頼友先生）	講義	11 回 12 回 (樋口)	7．特定の状況に対する精神保健福祉	講義
5 回 (冨川)	3）三次予防（冨田先生） （八田先生）		13 回 14 回 (柱谷)	8．精神科以外での精神療法 1）リエゾン精神看護 2）感情労働	講義 講義
6 回 (八田)	4）精神科リハビリテーションとリカバリー（冨田先生） 実際の援助方法（八田先生）	講義 講義			
7 回 (冨川)	5．地域移行支援・地域生活支援の基礎 1）重要性と課題 2）基礎知識		15 回 (柱谷)	まとめ・終講試験	講義・試験
評価方法	筆記試験　100 点		教科書	系統看護学講座　別巻 精神保健福祉　（医学書院）	

【　専門分野　精神看護学　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
精神疾病論	1	30 時間（15 回）	２年次・前期	礒川　亮

実践的教育内容	精神病院で１６年、心療内科を開業して１９年の経験のある医師により、臨床実習で経験する疾患及び国家試験対策に考慮した、代表疾患の診断検査・治療について具体的に教授する
学習目標	１．精神障害がある疾病の特徴と、治療、検査を含め生物学的側面が理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 □6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1．症候学総論（疾患分類） 1）精神障害と精神病	講義	9 回	5．神経症（不安障害） 解離障害 レム睡眠行動異常	講義
2 回	2）思考異常	講義	10 回	6．人格障害 転換性ヒステリー 急性ストレス障害	講義
3 回	3）感情異常	講義			
4 回	2．症候学総論 1）意欲・知覚・意識・記憶	講義	11 回	7．症候性精神病 説得と納得	講義
5 回	2）失語・失行・失認	講義	12 回	8．てんかん発作と痙攣	講義
6 回	3．特殊な意識障害 1）統合失調症	講義		9．広範性発達障害	
7 回	2）うつ病 3）老年期精神病	講義	13 回	１１．小児精神医学	講義
			14 回	１２．治療学総論、精神療法総論	講義
8 回	4．中毒性精神病 1）ドラッグ一般 2）アルコール精神病	講義	15 回	まとめ・終講試験	講義・試験

評価方法	筆記試験　100 点	教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎　（医学書院）

【　専門分野　精神看護学　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
精神看護学援助論Ⅰ	1	30 時間（15 回）	2 年次・後期	竹井　あかり
実績的教育内容	精神科病院で２５年以上勤務している看護師により、入院から退院までの回復過程について精神状態・精神症状・治療を踏まえた生活が整えられる具体的看護を教授する			

学習目標	１．病期に応じた症状・状態を経験している患者の基本的看護を理解し、アセスメントと援助ができる知識を習得する
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 □6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	１．精神を病むということ １）精神患者の例 ２）入院形態に沿った処遇	講義		４．攻撃的行動、暴力 ５．離院、隔離、身体拘束	
2 回	１．精神科における入院治療と看護 １）入院のメリットとデメリット	講義	9 回 10 回 11 回	１．精神障害をもつ人のセルフケアの援助 ２．セルフケアマネジメント	講義 GW
3 回	１．精神症状、状態像 ２．精神障害をもつ人の抱える症状	講義 GW	12 回 13 回	１．事例で学ぶ精神疾患障害をもつ人への看護 ２．病期に応じた看護 １）統合失調症 ２）双極性障害 ３）うつ病 ４）アルコール依存症	GW
4 回 5 回 6 回	１．精神障害をもつ人とのかかわり ２．治療的環境 ３．治療的コミュニケーション ４．プロセスレコード １）振り返ることの重要性	講義 演習	14 回	１．精神科における身体的（口腔内、爪、頭髪、皮膚など） ２．精神科治療における看護の役割 １）薬物療法、SST、心理教育、作業療法	講義
7 回 8 回	１．精神科における事故防止安全管理、倫理的配慮 ２．病棟環境 ３．自殺、自殺企図、自傷行為、他害行為	講義	15 回	まとめ、終講試験	講義・試験

評価方法	筆記試験　　100 点	教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1][2] 精神看護の展開　　（医学書院）

【　専門分野　精神看護学　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
精神看護学援助論Ⅱ	1	15 時間（8 回）	2 年次・後期	中山　奈緒美 （竹井　あかり）
実践的教育内容	精神看護領域担当教員が、領域のまとめとしてペーパーペイシェントによる看護過程展開技術を教授する また、精神看護学でもっとも大切な治療的コミュニケーションについて具体的に教授する			

学習目標	1．事例を用いて看護過程が展開できる ・ICF モデルを活用しアセスメントできる ・MSE を活用しアセスメントできる 2．対象を理解するために必要な基礎知識を身につける
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 □4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	精神看護学看護過程の展開 ICF の理解	講義			
2 回	MSE 9 つの枠組み	講義			
3 回	オレムセルフケア理論 基本的セルフケア要素 6 つ ・情報収集、観察、アセスメント ・セルフケアレベル査定	講義 演習			
4 回	事例（統合失調症）を用いて看護過程の展開①	演習			
5 回	事例を用いて②	演習			
6 回	事例を用いて③	演習			
7 回	看護過程の展開　まとめ	講義 ・演習			
8 回	終講試験	試験			

評価方法	筆記試験　　100 点	教科書	系統看護学講座　精神看護の基礎 系統看護学講座　精神看護の展開